



宇都宮大学 (栃木県)



大学附属施設を活用し、学校教育や生涯学習に関する実践的な課題について研修する

◇大学紹介

○大学の概要

宇都宮大学は共同教育学部及び地域デザイン、国際、工、農の計5学部を有し、また、大学院は、地域創生科学研究科（博士前期課程・博士後期課程）、教育学研究科（教職大学院）を備えています。

本学共同教育学部・教育学研究科の特色は教員養成と学校教育の場における実践的な研究課題に応えるリーダーの育成にあります。現職教員受入れ促進のための研究教育体制の整備を順調に進め、大学院生や研究生として地域の現職教員を毎年約70名受入れています。教員研修留学生の受入れは1995年に開始し、累計69名を受入れています。本学は東京の北100km人口約51万を擁する県都宇都宮市にあります。当市は東に鬼怒川、北に那須山地、西に世界的な観光地日光など、美しい環境に囲まれています。最近では、最先端技術の集積地であるテクノポリスとしてもめざましく発展しています。

○国際交流の実績

・過去3年間の留学生の受入れ実績

2021年度：140名
2020年度：149名
2019年度：191名

・過去3年間の教員研修留学生の受入実績

2021年度：0名
2020年度：0名
2019年度：2名

◇教員研修コースの概要・特色

○研修コースの特色

本学教育学研究科の教員研修留学生プログラムでは学校教育や生涯学習に関する実践的な課題について研修することができます。また、附属学校園を活用し、授業研究や授業参加、実習等に取り組むことができるほか、図書館や地域連携教育研究センター、総合メディア基盤センター等の大学附属施設を活用可能です。さらに、現職教員が大学院生や研究生として多数在籍しており、活発な交流ができます。

○受入定員 10人

○研修コースの概要

・日本語教育

2022年10月～2023年3月の6ヶ月間、宇都宮大学留学生・国際交流センターの日本語科目を受講します（必修）。希望する場合は、6ヶ月終了後も日本語科目を受講することが可能です。

・専門教育

①1年間を通して教員研修留学生全員を対象に、日本の教育（教職及び教科教育）や社会、文化などを主題とする授業を計15コマ（30時間）程度開講。②前期に「教育日本語」を開講し、専門教育にかかわる日本語教育を行います。③個別指導：専門分野の教員による個別指導を行います。④授業聴講：専門分野の教員の指導の下に学部、大学院の通常授業を聴講します。⑤論文の作成及び発表：留学生は研修の成果として研究論文を作成します。論文は年度末の研修成果報告会において発表し、『教員研修留学生報告書』に掲載します。

・見学・地域交流等の参加型科目

「共通授業」及び「専門分野の指導」の中で、史跡、文化施設、学校、教育行政機関等を対象にした見学や附属学校園における実習等を適宜実施します。また希望者には、学校教育、社会教育等の教育機関・施設に限らず、障害者施設、児童福祉施設等の関連施設の見学研修を実施します。

・その他

教授用語は日本語を原則としますが、「共通授業」の一部、また専門分野によっては「個別指導」を英語で行います。

◇修了生へのフォローアップ

研修終了後の日本での進学等についてアドバイスしています。

◇宿舎

国際交流会館（留学生寮）は交換留学生等が優先となるので、入居できない場合は、民間のアパートに入居する場合（初期費用約10万～15万円）もあります。

○宿舎数

・単身用55室・夫婦用6室・世帯用4室

○宿舎費 単身室の場合...6,500円/月（※原状回復費は約45,000円/1年半）

○宿舎設備・備品 ベッド（布団は別途レンタル可）、冷蔵庫、勉強机、椅子、棚、エアコン

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

近隣にスーパー等あり。通学は自転車で10～15分程度。

◇問合せ先

大学所在地：〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

担当部署：留学生・国際交流センター事務室

連絡先：TEL：+81-28-649-8166

FAX：+81-28-649-5117

ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/>

◇研修内容、受入可能人数、資格及び条件など

受入研究科等名	教育学研究科						
コースコード	教員名	メールアドレス	分野	研修の内容	使用言語	受入可能数	当該教員が留学生を受け入れるにあたっての条件(語学能力、専門能力等)、受入実績(過去5年間の受入国、人数)
10001	上原 秀一	suehara@cc.utsunomiya-u.ac.jp	教育学	教育哲学、比較教育学及び道徳教育について研修指導を行う。	日本語	1人	日本語、英語又はフランス語で論文が読め、コミュニケーションができること。
10002	丸山 剛史	marusan@cc.utsunomiya-u.ac.jp	カリキュラム開発・経営	教育課程論及び技術・職業教育についての研修指導を行う。	日本語、英語	1人	日本語又は英語で論文が読め、コミュニケーションができること。コスタリカ1、ラオス1、マラウイ1
10003	守安 敏久	t-moriva@cc.utsunomiya-u.ac.jp	国文学	日本近代文学の分野で、小説又は戯曲を読み込み、「文学」とは何かを考える。また、現代日本の演劇と文学との関係についても考える。	日本語	1人	高度な日本語読解能力を有すること。出願書類は日本語で書くこと。
10004	鈴木 啓子	suzukike@cc.utsunomiya-u.ac.jp	国文学	近代日本の文学について、小説を中心に解釈と鑑賞を行う。主に明治～大正期の短編小説を扱う。	日本語	1人	高度な日本語読解能力を有すること。日本古典文学への関心があること。
10005	森田 香緒里	kaorin@cc.utsunomiya-u.ac.jp	国語教育	国語教育の内容と指導法について指導する。(第2言語及び外国語としての日本語教授法は扱わない。)	日本語	1人	高度な日本語読解力を有すること。
10006	天沼 実	amanuma@cc.utsunomiya-u.ac.jp	英語学	言語習得や言語類型論の成果も視野に入れた上で生成文法や認知文法などの現代の主要な言語理論の発展、修正の方向を探る。英語の事実を詳細に検討した実証的研究に重点をおく。	日本語	1人	英語で論文の読み書きができること。高度な日本語の運用力を有すること。
10007	田村 岳充	tamuratakamitsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp	英語教育	授業観察、教材研究、論文購読などを通して、日本国内における英語教育の内容と指導法について理論的・実践的な研修指導を行う。	日本語	1人	高度な日本語の運用能力を有すること。日本国内の英語教育の実際から学び、母国での授業改善に生かそうとする強い意志があること。
10008	溜池 善裕	tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp	社会科教育	日本における社会科教育の現状を実際の学校現場の授業を参観・観察すること等を通して理解することをねらう。	日本語	1人	日本の小・中学校における社会科の授業を見て理解できること。
10009	下田 淳	shimoda@cc.utsunomiya-u.ac.jp	西洋史	西洋史の知識の習得。	日本語	1人	日本語または英語のコミュニケーション能力
10010	小原 一馬	kkohara@cc.utsunomiya-u.ac.jp	国際社会学	教育、文化、社会構造などに関する日本と諸外国の比較社会学。	日本語または英語	1人	日本語または英語で論文が読め、会話ができること。自国の文化と日本の文化への関心と十分な知識があること。

10011	熊田 禎介	kumata@cc.utsunomiya-u.ac.jp	社会科教育	社会科教育に関する理論的・実践的研究を行うための研修指導を行う。	日本語	1人	日本の小・中学校における社会科の授業を見て理解できること。コロンビア1
10012	酒井 一博	kazsakai@cc.utsunomiya-u.ac.jp	数理解析	力学系から生まれるカオスやフラクタルについて学ぶ。具体的には、関数の繰り返しによって生じる興味深いカオス現象、美しいフラクタル図形をコンピュータ支援により計算・作成し、描かれた図形に隠されている数学の美しい理論について学習してゆく。	日本語	1人	微分積分と線形代数の基礎知識を有すること。
10013	人見 久城	hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp	理科教育	日本の理科教育の内容と指導法について、研修指導を行う。	日本語または英語	1人	日本語又は英語で論文が読め、コミュニケーションができること。グアテマラ1
10014	松原 真理	marim@cc.utsunomiya-u.ac.jp	技術教育, 電気・機械工学	機械工学に関連した最新の技術動向について調査分析とそれらの技術を教授するための教材開発(ロボット, スターリングエンジン電子回路等), 及び技術教育における学習指導システムの開発を行う。	日本語	2人	日本語又は英語で論文が読め、コミュニケーションができること。インドネシア 1
10015	小原 伸一	koharas@cc.utsunomiya-u.ac.jp	音楽教育	音楽科教育の実践と理論研究を行うための様々な能力を身につける。音楽表現の技能(声楽や楽器演奏等の実技, 日本の伝統音楽を含む)の修得, 音楽教育研究の方法, 分野, 歴史の他, 教材や指導法について日本の教育状況をふまえ研究を行う。	日本語	1人	ソルフェージュ能力を有すること。
10016	松島 さくら子	sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp	工芸	日本の工芸の素材, 技法, 表現, 歴史に関する講義・実習を行う。作品制作により, 工芸表現の研究を行う。	日本語	1人	日本語又は英語でコミュニケーションできること。
10017	加藤 謙一	katok@cc.utsunomiya-u.ac.jp	体育方法学	身体の発育発達を理解した上で, 発育期の子ども(幼, 小, 中, 高)の体育授業のカリキュラムを考える。	日本語	1人	日本語又は英語で論文が読め、コミュニケーションができること。
10018	赤塚 朋子	akatsuka@cc.utsunomiya-u.ac.jp	生活経営学	生活とは何かという基本的な問題について考察する。現代社会の急激な変化の実態を捉え, そこに生じている生活問題を生活経営の視点から検討する。	日本語	1人	日本語又は英語でコミュニケーションできること。
10019	佐々木 和也	sasakika@cc.utsunomiya-u.ac.jp	情報衣環境学	伝統染織を中心とした環境教育について基礎的な知識とスキルを習得する。さらに, 生活や社会を豊かにしていくために, 伝統染織が育み継承してきた文化を感性学的な視点から検討する。	日本語	1人	日本語又は英語でコミュニケーションできること。
10020	カバリエロ 優子	yukocaballero@cc.utsunomiya-u.ac.jp	栄養学	食を文化的栄養学的側面から学ぶ。肥満などの生活習慣病と食生活との関連について栄養学の研究手法を修得する。	日本語	1人	日本語、英語又はスペイン語でコミュニケーションできること。